

2015年1月発行
第32号 / 1号

**私たちは、新しい生き方ができることに感謝しているからこそ、
もっと与えて、もっと生きて、もっと愛そうという気持ちでいられるのだ。**

『リビングクリーン：ザ・ジャーニー・コンティニューズ』、序文



世界中で読まれている NAの定期刊行物

NA Way マガジンは、ナルコティクスアノニマスのメンバーのための雑誌であるため、英語、ペルシャ語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など、さまざまな言語で出版されている。そしてこの雑誌の使命は、ひとりひとりのメンバーに回復とサービスに関する情報を提供することであり、そこには回復にまつわる喜びだけでなく、現在NAで問題となっていることや世界中のNAメンバーのだれにとっても見過ごせないイベントなども取り上げている。編集スタッフはこのような使命に従い、世界中のメンバーが特集記事をはじめとするさまざまな記事を書いて、自由に載せられる雑誌にしようとするのはもちろん、現在行われているサービスやコンベンションに関する情報を提供することにも力を注いでいる。だが、これが定期的にメンバーに届く雑誌であるからには何よりもまず、『アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができる』というNAの回復のメッセージをたたえることにこそ力を注ぐ。

NA World Services, Inc.
PO Box 9999
Van Nuys, CA 91409 USA
Telephone: (818) 773-9999
Fax: (818) 700-0700
Website: www.na.org

NA Way マガジンでは、読者のみなさんが参加されるのを待ちかたっている。この年に4回発行される定期刊行物によって、ぜひ、世界中の仲間たちと分かち合いをしていただきたい。回復するなかでの経験はもちろんのこと、NAのさまざまなことに関する意見や、これからの課題などについても投稿をお待ちしている。ただし、投稿された原稿はどれもみな、ナルコティクスアノニマス、ワールドサービス社に所有権があるものとされる。購読の予約、編集に対する意見のほか、著作権など実務的なことでの相談は、PO BOX 9999, Van Nuys, CA 91409-9099 にお問い合わせいただきたい。

NA Way マガジンは、NAメンバーがそれぞれに自分で経験したことや自分なりの意見を紹介する雑誌である。ここにはNA全体の意見は表明されていない。そしてもちろん、ナルコティクスアノニマス、NA Way マガジンまたはナルコティクスアノニマス、ワールドサービス社によって支持されていると受け取れるような記事も掲載されてはならない。また、インターネットからNA Way マガジンを配信することを希望する場合には、上記のアドレスに手紙をいただくか、naway@na.orgにeメールをいただきたい。

NA Way マガジン (The NA Way Magazine ; ISSN 1046-5421)、NA Way (The NA Way)、ナルコティクスアノニマス (Narcotics Anonymous)、この3つは、ナルコティクスアノニマス、ワールドサービス社のトレードマークとして商標登録されている。NA Way マガジンは、ナルコティクスアノニマス、ワールドサービス社 (19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311) によって、年に4回発行される。

編集者から、ひとこと

私たちが可能性や幸運をわかちあうことは、恐れや苦悩をわかちあうのと同じぐらいメッセージを運ぶうえで欠かせないものになっている。私たちには運ぶべき希望のメッセージがある。それは贈り物であり、どうしても手渡さなければならないものなのだ。『リビングクリーン：ザ・ジャーニー・コンティニューズ』、『ベーシックテキスト』第2章

NA Way マガジンの内容は、回復やサービスに関する体験談から、意見記事、ユーモアたっぷりの記事、NAに関する歴史や雑学をつづった記事にいたるまで、多岐にわたっている。ただ、出版物には必ず編集の指針となるものがあるので、NA Wayでも文法や文章構成、スペル、意味内容、文字数、「NA用語」との一貫性などについて投稿された原稿を整理しているが、その際にはもちろん、原稿の主旨や文体や文の調子を損なわないようにと最善を尽くす。ここでは、NA Way マガジンの誌面構成をざっと説明しておくので、投稿に関する詳細については www.naway.org をご覧いただきたい。

『特集記事』に掲載するのは、回復にまつわる体験談、NAで現在問題となっていることや起きていることに関する報告、NAの歴史をつづった記事などである。『わかちあい』では、回復またはサービスに関する個人の物語を紹介する。『編集部へのお便り』または『読者の意見』のコーナーには、過去の記事に対する反響や、メンバーの意見が掲載される。『第一の目的』に関するページでは、「フェローシップ ディベロップメント」をはじめとして、グループやサービス機関によるさまざまな挑戦やユニークな経験を取り上げている。『ユーモア』のコーナーは、「ベスト10」のリストからパロディや「なぜなぜ」にいたるまで何でもありで、ミーティングで耳にしたおもしろい話やコミックなどが登場する。『知ってた?』というページでは、世界各地のNAやNA全体に関することで興味深い事実や歴史の一コマとなるものを紹介している。そして、みなさんから送られてくる『アート作品や写真』(PSD、JPG、EPSなど高解像度のフォーマットによるもの)も誌面づくりに一役買うことになるが、アノニシティに反する写真はどうかご遠慮いただきたい。わたしはいつも、NA Wayのことを誌面によるわかちあいだと思っている。ここに掲載されていることは、回復をわかちあうミーティングやサービスのミーティングで、ワークショップの休憩時間に、あるいはミーティングのあとでお茶をしながら、わたしたちが話していることにほかならない。だから、スペルや文法のことなど気にすることはない。みなさんの心のままに書きつづり、あとはよろしくと、文章を整えるのをこちらにまかせてしまえばいいのだ。

ド・J (エディター)

今月の特集記事

特集記事	3	「ベーシックテキスト」に関する簡単な記録	9
• まず、踏まえておくこと		「伝統」に関するプロジェクト	13
グループ紹介	4	フェローシップディベロップメント	14
わかちあい	5	WCNA 36	15
• 恐れにはなすすべもない		サービスセンター	17
• ステップ3によって自由になる		カレンダー	18
• 役に立ちたいわけ		NAWS Product Update	19
ベーシックキャプションコンテスト	8	Coming Soon	20

Electronic subscribers can click here for additional content.

<表紙の写真> ラジュ・G (ネパール/カトマンズ)。

インディア リージョナルコンベンションの際に、ゴア (インド西部) のカベロッシンビーチにて撮影。

NA Way マガジンでは、読者のみなさんからのお便りをお待ちしている。掲載された記事に対する感想はもちろん、NAという集まりのなかで取り上げられている問題についてひとつの考え方を示すにすぎないものであっても、エディター宛に送っていただきたい。250字以内にまとまっていれば、そのまま編集の手を加えずに掲載されることになっている。お便りには、本名、現在使われている住所および電話番号を明記することをお忘れなく。掲載される場合には、アノニマスという希望がないかぎり、ファーストネームと苗字のイニシャルを署名として用いることになる。

◆◆◆◆ FEATURE

最初のステップ

無力であることと、受け入れること

この病気に対しては、まず無力さを認めないことには何も始まらない。だから、私はスポンシーができるたびに、自分が無力だと思うことを100項目リストアップするという課題を与えることにしている。これには、3つの理由がある。ひとつは、このようなリストをつくると、自分の無力さがアクションにとどまらないほど広範囲に及んでいるのを理解しやすくなるということ。もうひとつは、このようなリストにはスポンシーにとって重要で価値のあることが書かれているので、その人となりを理解することができるようになるということ。そしてもうひとつ。これはテストではなく学ぶ練習なので、さっそくスポンシーと一緒に取り組むきっかけとなるということだ。スポンシーが考えに詰まったら、私が質問をしていく。それによってスポンシーは聞かれたことが自分の力の及ぶことかどうか考えて、及ばないことであればリストに加えることができるというわけだ。

無力だと考えることで、私には「平安の祈り」というものがますます大事になってくる。この祈りによって私は、自分には変えられないものを受け入れ、変えられるものは変え、その違いを見分ける賢さをもつように求められるからだ。そして、これまでスポンシーたちと一緒に取り組むことで、お互いに共通して障害となっているものを見抜くことができた。私はつい、自分にはどうすることもできない人や場所や物事を変えようとして時間とエネルギーを無駄にしながら自分の意のままになるものを受け入れようとして、この祈りをあべこべに実践してしまうのだ。

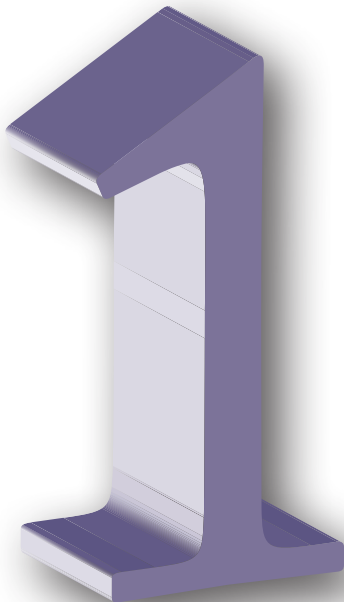
そうやってみていくと、ステップ1の無力さに関する理解が深まってはかりしれないほど力を与えてくれるようになる。なぜかというと、私が（コントロールしたり、おどかしたりするのではなく）変えなくてはならないことにしっかり目を向けるようにしていれば、それを正しく変える力が与えられるからだ。それについては、こういうことがあった。回復の道を歩み出したばかりのころ、私はもっと機会に恵まれた人生を歩みたかったため、学校に戻って学位を取ることにしたのだ。そうして大学を卒業したことでチャンスが巡ってきた。世界中でボランティア活動を行う草の根団体の新しい業務開発プログラムに参加することができたのだ。当時40歳だった私は仕事を辞めてポーランドのクラブに移り、ポーランドが市場主導の経済に移行する助けになる役割を果たすことができた。海外で生活することによって、私の人生は冒険に満ちた旅になっていた。たとえばロシアの大地や、フィンランドの北極圏の北部を、私はバックパックひとつで旅をした。エジプトのギザでは、大ピラミッドの埋葬室のなかに入ったことがある。中国では万里の長城を歩き、インドではタージマハールで日の出を拝んだ。そのほかにもカサブランカ、カトマンズ、ウランバートル、ダブリン、イスタンブール、レイキャビック、マラケシュ、・・・と旅は続き、これまでに訪れたのは全部で30カ国になる。

そして経済不況がやってきて、私はこの3年近く失業状態になっていた。けれども、経済は変えられないことを受け入れると、ステップ1の無力さによって自問することができた。「生計を立てるために『できること』は何だろう」。60歳にして一から出直しになったが、私はもう一度働けることがうれしくてならない。だがそれも元気であればこそだから、こうしていられることを当然と考えてはいけなくて気づいて健康管理に努めることにした。体重を80ポンド減らして、今はバランスのとれた食事を取り、運動することを日課にしている。

私がこれまで無力さについて理解したことは、ミネソタリージョンを委員会による機構からプロジェクトに基づく機構へと移行させるチームの一員となることで、NAのサービスにも生かされた。私たちは、電話サービスを一本化する道を開いて、エリアごとにばらばらだったミーティングリストをひとつにまとめた。そして、サンタクルーズ（カリフォルニア）エリアの「刑務所収監者とのスポンサーシップ委員会」と、それに続いてすぐに「ブリッジ・ザ・ギャップ（架け橋となる）」というプログラムをつくった。

ステップ1によって、私は自分の力が及ばないことと及ぶことに目を向けずにいられなくなる。自分の力が「及ぶこと」を見間違えずにいれば、私は自分の人生と他の人たちの人生を良いものにしていくことができるし、そのために今日だけ自分にできることは何だろうか、毎朝すなおに自問できるのだ。

キット・E（アメリカ合衆国／ミネソタ）



グループ紹介

NAWayでは、世界中のNAからミーティング会場やイベントの写真が送られてくるのをお待ちしている。ただし、集まっているメンバーがどこのだれとわかる写真はご避けてほしい。なお、写真には、グループやイベントの名称、所在地および国名はもちろん、グループやイベントが誕生してどのくらい経つのか、ミーティングの形式やイベントで大事にしている習慣、ユニークな点など、グループやイベントの紹介文を添えていただくようお願いする

プロスペリダージ（繁栄）グループ

「サンパウロカエターノ グループ」はブラジルに最初に誕生したグループのひとつで、1995年から教会でミーティングを開いてきましたが、10年していったん活動を終えました。その後、何人かのメンバーが商業施設に部屋を借りてグループを再開してからは、週に2回のミーティングに毎回5人ぐらいのメンバーが参加していました。それがやがて週に10回となり、メンバーも毎回20人ぐらいに増え、毎月平均して15人ぐらいの新しいメンバーがつながるようになったのです。そこで、そうしてつながったアディクトたちがミーティングでわかちあうことで仲間になれたと感じられる機会を増やそうと、何人かのメンバーが1年かけて計画を練り、新しいミーティングを開くことになりました。

私たちは、施設にいるアディクトたちに手をさしのべている神父の噂を耳にしました。この神父は、近隣の2つの街にまたがる地域にある教会に貸部屋をもっているというのです。会ってみると、この神父はNAのことを知っていて、NAのような仲間の集まりがあることに感謝していたのです。私たちはありがたくて涙がこぼれ、ハイヤーパワーを信じて希望を抱きながら教会を後にしたのです。その翌日、2012年1月15日の木曜夜8時に、この教会で最初のミーティングが開かれました。私たちはNA文献とメダルリオンとチップをそろえ、コーヒーを用意し、テーブルにはNAのロゴマークをプリントしたクロスをかけ、壁には『ステップ』と『伝統』と『概念』を張り出しました。サービスに関わろうというメンバーもたくさんいました。私たちは、奉仕を任されるしもべたちを選び、グループの名前を決めました。それから、保健所や警察署、学校、スーパーマーケットなど、あちこちにミーティングの予定表を貼らせてもらい、農産物市場や産業見本市をはじめグループの会場がある地域や繁華街で300部以上のパンフレットを配布しました。そして2012年の1月10日には、第1回目の回復をわかちあうオープンミーティングを開催し、30人のメンバーと一般の見学者5名の参加がありました。愛情深く思いやりのあるハイヤーパワーは、私たちだけではできないことを、私たちに代わってくださるのです。私たちは最初からそう信じていました。

2013年の1月19日には、第1回プロスペリダージ・グループ・デイ・オブ・ステップ・ラーニング・デイ（プロスペリダージグループによる第1回ステップセミナー）を開催しました。これは丸一日をかけてメンバーたちが12のステップについてわかちあうイベントでした。近隣のいくつかの州から多くのメンバーが参加してくれ、そのなかから何人もがスピーカーも引き受けてくれました。それぞれのスピーカーが一つのステップについてわかちあい、持ち時間は40分でした。参加費無料のイベントで、30人の奉仕を任されたしもべたちがまとめ役となり、朝食、昼食、午後のおやつが提供されました。210の椅子が並べられた会場は午前9時～夜8時まで満席で、立っているメンバーたちもいたぐらいです。25のエリアから500名以上のメンバーが参加し、見学者は60人でした。

プロスペリダージ・グループは、ブラジルのサンパウロにあるサンパウロカエターノで毎週火曜の夜8時～10時にオープンミーティングを開いています。グループというのはメッセージを運ぶための最も強力な道具ですから、私たちはこうして感謝の気持ちや、喜び、愛、信じる心、希望を世界中の仲間たちとわかちあうことにしたのです。

アデミール・Aおよびプロスペリダージグループ
(ブラジル/サンパウロ)





恐れに対して無力

クリーンになって6年がすぎ、ステップ1にもどったところで、俺はNAで経験を積んだ仲間のひとりに12のステップを導いてくれるようお願いした。俺はこれまで、スポンサーを変えてステップを踏んでいくたびに何らかの貴重な教訓を学んできた。このようなステップの取り組み方は自分の回復を強化していくと同時に、自分がステップによって他の仲間を導くための新しい方法を学ぶのにも役立っている。だが、今回はちょっと勝手が違った。いきなり、自分はどんな問題に取り組みたいのか、とスポンサーから聞かれたのだ。それで「いや、俺はステップを実行できるように力になってほしいんだよ」と答えた。すると、クスリに手を出してやっかいなことになっているんじゃないだろうかと聞く。俺がちがうと答えると、それなのに、ステップを使って克服したい問題も決められないのか、と言われてしまったのだ。俺は、12のステップによって回復の道を歩んでいれば、自分がどんな問題を抱えていても必ず解決策がもたらされるということ、あらためて思い出した。だから、考えてみるしかなかった。

とりあえず、生きるうえでさまざまなことにうまく優先順位をつける方法を学ぶことができれば、回復していくのにプラスになるかもしれないと思った。俺は、自分にとって重要なことをやり遂げようと、もがいてばかりいるし、それはきっと物事をできるだけ先延ばしにしようとする傾向があるからだろう。もっともらしい理由をつけちゃ、単純でどうでもいいようなことからやる。そうやって時間を無駄にするから、重要な課題を終わらせるのにあわてることになるんだ。でも、スポンサーはこういうことが根本的な問題だとは納得できなかったようで、もう少し考えてみるんだと言った。

それで、タマネギの皮をむくように一つ一つ掘り下げていった結果、俺が今でもまだしきりに格闘しているのは恐れだということになった。すると今度は、恐れについて質問攻め。答えていくうちに、俺は「それでもまあ、恐れにまったくくすすべがないってわけでもないんだよ。つまりさ、つねに恐れで立ちすくんでいるとか、自分の人生が恐れに支配されっぱなしになってるとかってわけじゃないからさ」と言っていた。そんなことを言いながら、俺は使うことについてやっぱり同じような言いわけをしてきたことに思い至った。ほら、出たくもないミーティングに出ながら使っていたところのことだ。

それで俺は、アディクションに対して自分がいかに無力であるかをいやというほど思い知らされるはめになったことを思い出した。それまでずっと、使うことで混乱してると考えてもよさそうなサインが表れていたのに、俺は断固として否認しまくっていた。ただもう、ハイになればよかったってわけだ。たぶん使う量や回数を減らせば大したことはないだろうし、そのうちに本気になれば俺はぜったいに止められるはずだった。それがいざ、もう止めるしかないというときになってようやく、俺は止めることができないう現実と直面したんだ。

当時の記憶がよみがえることで、自分がいったい何を恐れているのかがわかった。俺は、恐れを覚えるのをまったくやめられない。この先いつ恐怖心がわくのか、そのとき自分がどう反応し、いつになったら恐れが消えるのか。俺にはコントロールできない。恐れがいつ、どこから、どういうふうやってきて、どれだけ長く続くことになるだろうとも、俺はまったくもってなすべがない。しかも、どう立ち向かえばいいのかもわからないのだから、「生きることがどうにもならなくなってしまった」ということになるわけだ。

使っていたころの生き方を見つめ直せば、どうにもならなくなりつつあるのは簡単にわかる。そのサインを思いつくままにあげていくと、仕事や自由、人とのつながり、安心感などが失われること、健康を損なうことがある。そして、はじめて薬物の使用を控えようとしたとき、俺は使わないと決心するのもままならなかった。だが、そんなことよりもっと決定的なことは、どんなにきれいごとを並べようと（自分一人では）思うとおり物事を進めたり人を動かしたりすることなどできやしないということなんだ。無力ということを理解して成長していくにつれて、俺はそう信じるようになった。マーフィの法則でいえば、俺は必ず「袋だたき」にあったからだ。

12のステップに取り組んだ結果、スピリチュアルな経験をしたこと、俺の人生にはどうにもならなくなっていくことが一目でわかるサインはほとんどみられないと言ってもいいだろう。この5年近くひとつの仕事に就いているし、職場でも認められ、働きに見合う給料をもらい、信頼されていると感じる。今でも刑務所には定期的に行っている。といっても、H & I（病院施設のサービス）のパネリストとしてだ。結婚し

そうすると、
何年かにわたって
クリーンで生きることが身についた今、
いったい、どこが
どうにもならないく
なっているのか？

て3年以上になるがうまくいっている。体調もいいし、元気に暮らしている。そうすると、何年かにわたってクリーンで生きることが身についた今、どこがどうにもならないくなっているのか？だからこそ、ここで自己を見つめるのだ。つまり、俺の人生はNAという仲間の集まりと12のステップを継続的に実践することにかかっているというわけだ。俺は、自分の人生が思いのままだと考えてしまう。ステップ1の後半部分をじっくり考えながら、俺はいまだに自分の力ではうまく生きられないのだと自覚しなければいけない。

俺は、不安や恐れを抱えていられないから、訳のわからない行動を取ってしまうのだ。ときには認めるのが難しくなるが、人と接していても不安や恐れがあるとやはり極端から極端へ走ってしまう。気がつく、親切にしたり愛嬌をふりまいて他人を操ろうとしてることも多い。それが通用しなくなれば、思いを遂げるためにあの手この手で人を手なづけようとする。このような努力が実を結ぶこともたまにはあるが、それでも、優位な立場であり続けられたことなんかほとんどない。むしろ、自分本位でこのような手段に訴えると混乱が生じて、人間関係がギクシャクしてしまうばかりだ。つまり、自分の恐れを解消しようと最大限の努力を払っても、うまく自分の望む結果を得られることなどまずありはしないのだ。その一方、（努力が失敗に終わってやけくそになっていた、はたまた、ごくまれに悟ったりして）ありのままに受け入れることができれば、ばかばか振る舞いをしなくなるし、そうせずにはいられない不安感も薄らいでいく。

要するに、ステップ1は問題を述べているのだと理解するようになった。俺には（自力では）克服できない問題があり、そういう人間が生きていこうとすればほとんどの場合人生は受け入れがたいものになるってことだ。仲間がいてくれてよかったよ。みんな、自分の苦しみを

乗り越え、NAに積極的に関わりつづけ、先につながった仲間たちから学んだことを進んで俺に教えてくれようとした。だから俺は、自分の抱える問題がどのようなものであろうと、どれほど状況が絶望的に思えようと、いつだって希望を持つだけの理由はあるんだということを読んでこられたんだ。そうやって自分には明確な方向性が示されているのだから、それに従おうとすれば、どんな困難に直面しても乗り越えていけるだろう。ここまでできたら、ステップ2に目を向けることになるのはもうよくわかっている。

ビル・H（アメリカ合衆国／カリフォルニア）

ステップ3によって自由になる

もうだいぶ前のことになるが、わたしはかなり長くクリーンタイムを重ねた後でリラプスした。そんなわたしに、ほとんどの仲間がまさきに聞きたのは「なぜ、リラプスしたのか」ということだ。わたしは長い間、この質問への答えをもたずにいた。ナルコティクス アノニマスから離れようと思ったときのわたしは、うわべは積極的にプログラムを実践しているメンバーそのものだった。NAにしっかり関わっていたし、スポンサーをもって積極的にステップに取り組み、きちんとミーティングに出席し、クリーンになってまじめにプログラムに取り組んでいる仲間たちと共に歩んでいた。それなのに「なぜ」と思っても、薬を使いまくる状態に戻ってしまったら答えなどわかるわけではない。ナルコティクスアノニマスのプログラムは効果がなかったという理由しか思いつかなかった。

わたしは（プライドとエゴとともに）こんなウソにしがみついていたので、ずっとミーティングに出られないでいた。それから4年して、孤独にうちひしがれ心が死んだようになって戻ってきたときには、これでなんとかなるとはとても思えなかった。頭の中には、何をやっても結局は空しいままで一生を終えるんだという「確証」があった。けれども、以前にNAにいたことがあるから、提案の意

味はわかっていた。わたしは気分がよくなることを望んでいたわけじゃない（そんなこと望んでも無駄にきまってると思ってた）。わたしの望みは、使うのをやめて刑務所と縁が切れることだった。

わたしは初めてプログラムにつながったときにしたとおり、さっさとスポンサーを見つけてステップワークに取りくんでいった。多くのアディクトと同じように、わたしにとってステップ1は「何を今さらわかりきったことを、と突っ込みたくなる」ものだった。自分がアディクトであるということも、そしてそれが事実であるために自分は無力で生きることがどうにもならなくなってしまったことも、薬を使いまくっているときだってわたしは否認したりはしなかった。

だから、すんなりステップ2に進んだが、このステップにはちょっとこずった。自分が正気ではないのを認めることは、どうということもなかった。自分の下した決断、アディクションによって陥った境遇、自分で納得している過酷な「現実」などによって、わたしが正気でないのはもうはっきりしていた。そして、この世界には自分より大きな力をもつものがたくさんあることも、すぐに信じるのができた。そう信じるきっかけとなってくれたもののひとつが、アディクションという病気だった。アディクションにはとても太刀打ちできないという事実を否定することは、わたしには不可能だった。ただ、それから先となると信じるのが難しくなった。それでも、「信じているつもりで行動する」という態度とステップ2に特有の言葉づかいによって、自分より偉大な力が自分を正気に戻して「くれるだろう」と思えてきた。そうやって当然ということではなく、ハイパーパワーにはそれだけの力があるのだと信じられるようになったのだ。

ステップ3のこととステップ3によって人生がどう変わるのかということを中心に理解することは、わたしが順調に回復していくうえで（そしてなによりも）自分が手にしたものを持ち続けていくうえで、絶対に欠かせないことだと思っている。日々、ステップ3に沿った生活をしていなければ、アディクションという病気につきものの狂気によっていずれクスリに溺れる状態に逆戻りしてしまうというのが、わたしの信念であり、身をもって学んだことでもある。つまり、それこそが、なぜわたしがリラプスしたのかという疑問に対する答えなのだ。と今にしてわかる。それゆえに、ステップ3についてわたしが理解していることを分析しながら経験と力と希望をわかちあうことは、転ばぬ先の杖になると思ったのだ。

決心すること

ステップ3は、行動に踏み出すものだ。このことを完全に理解することが、わたしにはきわめて重要になっている。人生にこのステップを生かすためには、



日々行動するしかない。このプログラムの力とハイヤーパワーの意志にゆだねて降伏することにしようと思を決めなければならぬ。アディクトなのでたらめな生き方は正気の沙汰ではないのだから、人生にスピリチュアルな原理を生かすことがわたしの取るべき正常な行動になる。このステップによって決心するのはそういうことであり、それがわたしが身をもって学んだことなのだ。薬を使いまくっていたころには、わたしの意志といのちはこの病気の手に落ちて、自分のものではなくなくなってしまった。今のわたしは、自分の意志といのちをゆだねようと決心しているし、その日その日にあらためてゆだねるかあるいは取り戻すかを決める機会にも恵まれてもいる。クスリに溺れていたなら、そのような選択肢は残されていなかったのだ。

強情な自我 対 神の意思

『なぜ、どのように効果があるのか』の「ステップ3」には、「強情な自我には、かたくなに心を閉じ、やる気を持たず、自己中心的で、徹底的に反動的になるという特徴がある」と書かれている。要するに、強情な自我はスピリチュアルな原理とは反対の生き方をするものだと考えればいだろう。わたしの場合は、これがまさに完全な孤立というかたちをとる。この世界とそこに存在するもの（つまり人や、場所や、物事）で、自分の思い通りにならないものは排除してしまうのだ。自分の意志で生きていく場合には、感動したり変化したり成長したりする機会がまったくない。これが、自分の意志と神の意志との違いについてわたしが理解したことである。神の意志は、わたしがスピリチュアルな原理を生かしてもっと共感性のある人間に成長するためにある。これに対して、自分の意志は停滞するものである。さらに、わたしが従うべき道はひとつだけではないということも理解した。決心することを恐れなくてもいい。意識的にハイヤーパワーに導きを求めるとき、わたしは一心に願うことで降伏、信じる気持ち、信頼というスピリチュアルな原理を生かすことになるのだから、間違った選択をすることはありえない。

自分の理解する神

自分のハイヤーパワーがどういうものであるかをあまり詳しく話すのはやめた方がいいだろう。そんなことをしたら仲間との間に分裂が生じてしまうし、さらに言えば、このステップにはそんなことをしろと書かれてもいない。NAの文献の言葉づかいは、わたしが名前と呼んだり姿を思い浮かべたりしようとしなくても、ハイヤーパワーを利用することを可能にしてくれる。わたしの場合は、ハイヤーパワーを論理的に理解しようとしないうことがとても重要だった。NAのなかで起こる奇跡の数々は、不可解でまったく理屈に合わないからだ。どういうわけか、わたしたちはNAにいます、自暴自

棄や死に至るアディクションと狂気の進行を食い止めて生き方を変えることができる。どんなアディクトであっても、NAのミーティングに出席しているのを目にしたら、それはもう奇跡だ。毎日クリーンでいられるのも奇跡だし、クリーンになって20日であれ、20年であれ、使わないで過ごせる一日は祝うに値する。そして自分の問題をひとつひとつ見つめていき、何がまずいのかを理解し、きちんと解決しようとするなんて、ただ理屈をこねてばかりいるわたしにはなかったことだ。「使わないでいられることをいくら考えたって、しょうがないよ」と、同じアディクトであるスポンサーが言った。この一言が、わたしには転機となった。わたしは、クリーンでいられる理由など理解しなくていい。NAの12ステップによってわたしの人生や仲間たちの人生がこれほどまで大きく変わった理由など、理解する必要はない。何年ものあいだNAのミーティングにやってきては慢性的にリラプスしていたのが、ある日クリーンでいられるようになる理由など、理解できなくてもいい。友達にな

「ピンクの雲」など、わたしにはなかった。

薬漬けの状態から解放されても、みじめなままで・・・

れるとは考えてもみなかった人たちが、まさに自分が必要としていた瞬間に自分の人生に登場した理由など、理解しなくてもいい。自分の理解する神がどのように力を発揮するのかは、わたしの理解の及ばないことだ。わたしはその事実を受け入れて生きていけばいいのだ。同じ例で言えば、愛や信じる気持ちがどのように力を発揮するのか、それがどこから生じるものかなど、わたしたちはだれひとりとして説明できないのに、だれもがみなそういうものの存在を感じているし、それが自分の人生や仲間たちの人生に影響していることがわかる。それは、ハイヤーパワーにもあてはまるのだ。

ゆだねること

心が決まったアディクトにとってステップ3のもっとも難しい部分のひとつは、自分がこれからゆだねるものを正確に見極めることだった。「ステップ3は、行動を起こす必要はないとは言っていないが、行動の結果について必要以上に悩むことから解放してくれる」（『なぜ、どのように効果があるのか』、「ステップ3」）これを読んで、はっきりとわかった。わたしの頭の中にある狂気、すなわち際限のない「なぜ、どうして」とか「もし、～だったらどうしよう」などという妄想や不安をゆだねるのだ。そうでないわたしは、自分のしたことや言ったことが正しかったらどうか、すべて解決するにはどうすればいいのか、まづいことになったらどうしようか、なんと言えいいのか、と夜も寝ないで悩ま

なくてはならない。このようなことを全部、わたしは思い通りにできると思い込もうとしている・・・だから、あれこれと考えてしまうのだ。わたしは毎日スピリチュアルな原理によって人生を生き、自分が答えられない疑問で頭が鈍ってきたら、ハイヤーパワーにお願いして自分の考えを引き取ってもらい、その瞬間の人生を楽しめるようにしてもらおう。悩みや不安をゆだね、それによって示された行動を取り、謙虚な気持ちで導きを求めるかぎり、わたしの意志といのちはハイヤーパワーによって大事にしてもらえると信じている。

スピリチュアルな原理

わたしは抜け殻になってNAに戻ってきた。仲間たちのなかにも、自分が生きる屍のように感じたものだ。「ピンクの雲」など、わたしにはなかった。薬漬けの状態から解放されても、みじめで、救われたという気がしなかった。あのころからみて、今のわたしは180度変わってしまったなんてものではない。まったく別の人生を生きている。だからミーティングで、仲間たちがスポンサーを

もたないことやステップに取り組んでいないことについてわかちあうのを聞いていると、わたしは自分が味わった絶望感ややりきれなさを思い出し、わたしたちが12のステップによって学び生かそうとするスピリチュアルな原理がどうやってあのような空虚感を埋めてくれるか、あれほどの混乱状態をどのように一掃してくれるか、うまく説明する方法があればいいのと思ってしまう。今のわたしには希望と信じる気持ちがあり、ハイヤーパワーと自分を信頼している。わたしはもう頭の中にある惨めに浸る必要はない。そういう否定的なものはハイヤーパワーにゆだねて今を生きればいいのだ。こうして心が決まっていれば絶対にうまくいくだろう。現に、毎日生きてその結果を確かめることができているし、だから、どんなことがあっても、これから先も毎日降伏していればうまくいくし、狂気からも救ってもらえると信じていられるのだ。わたしはミーティングの終りに苦しんでいるアディクトのために祈るときには、アディクトたちがNAにつながれますようにと祈るだけでなく、すでにNAにつながったアディクトたちがNAのステップによって心の平安を見いだせますようにと祈っている。

サマンサ・H

(アメリカ合衆国/カリフォルニア)

役に立ちたいわけ

成長して努力するため

ぼくは16歳の時にナルコティクス アノニマスを紹介された。この病気の進行は待たなしだったので、20歳の時にはついにクリーンであるために必要なことは何でもしようという気持ちになった。ぼくは孤独感を抱き、おびえて、ボロボロになっていた。けれども、それまでの使いまくっていた4年間には（ラリってミーティングに行き、たいていの使っているアディクトがやりそうなことをやっていた）ぼくを、NAのメンバーたちはけっして追い出したりせず仲間として温かく迎えてくれたし、優しい言葉をかけてくれたし、共感と思いやりを示し続けてくれていた。

ぼくは、スポンサーの提案ではじめてクリーンになって1ヶ月でサービスに関わるようになり、それ以来、いろんな役割に就いてサービスをやってきた。当時、ぼくはコーヒーを飲まなかったのだけど、とにかくコーヒー係をやった。サービス活動は、生きるのがたまたまなくつらい時期に自分がクリーンであることを可能にする基盤になっていたのだ。ナルコティクス アノニマスの役に立とうとしているうちにいろんな関係が築かれていき、みんなからしっかり支えられてよしくしてもらったことで、ぼくはそんなことが可能だと想像もしなかったような方法で成長することができた。そして、ハイパーパワーからは仲間のスポンサーをするチャンスが与えられてきた。ぼくは今、素晴らしく勇敢な若者のスポンサーをして成長と変化を見守るという恩恵が与えられている。この若者は驚くような成長と変化の歩みを続けているが、ちょうどサービス活動によってもたらされるさまざまな奇跡を経験し始めたところだ。

ぼくは母の頼りにする息子になり、もう心配の種ではなくなった。一人きりの兄弟である弟からは兄として認められているし、地元では社会のためになる市民となっている。ぼくはクリーンになる前にはダンスなど、まずすることがなかったのに、NAにつながってのびのび踊る方法を学んだら、かつては恐れをなしていたNAのイベントで開かれるダンスパーティが楽しみになってしまった。ぼくは自分を大事にしているし、だから今はほかの人たちを大事にしようと思えることができる。ナルコティクス アノニマス

につながってサービスに関わらなかつたら、このようなことは起こりもしなければ、可能になることもなかっただろう。

ぼくはこのまま成長していきたいし、それによってかつて仲間たちが自分の力になってくれたように、自分も仲間たちを大事に支えていけるように精一杯努力していきたい。だから、ぼくはナルコティクス アノニマスのために尽くす。自分に与えられた人生に報いようとするなら、それ以外の方法はないだろう。

イーライ・I (アメリカ合衆国/イリノイ)

ニューブランズウィックにとどまらず、世界中で

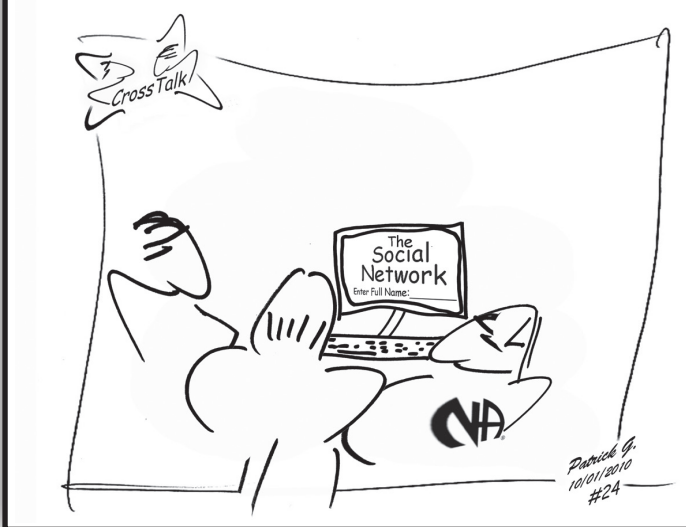
オレがサービスに関わるのは、まだ苦しんでいるアディクトにメッセージを運びたいからだ。サービスをしていなければ、オレの人生に喜びはない。だがそれも、ホームグループがないと何も始まらない。ホームこそ、オレがサービスを始めた場所だからだ。生きていく助けとなっているこのプログラムのために何かをするのは、謙虚なことだ。同じアディクトの手助けをするのは、すぐく治療効果がある。エリアやリージョンでも、そしてホームグループのGSRAとしても、オレはサービスをするのが楽しくてならない。こうしていれば、ニューブランズウィックのミラミチにとどまらず、世界中でNAは続いていくだろう。

カーマン・H (カナダ/ニューブランズウィック)

ベーシック・キャプション・コンテスト

*ベーシック・キャプションは、「ツボを押さえたひとこと」です。ここに、みなさんがNA Wayマガジンに参加できる新企画をご用意しました。下にあるコミックのキャプション（短い説明文）を書いて送っていただくだけで、そのままキャプション・コンテストに参加できてしまうのです。みなさんのキャプションから傑作と思えるもの（1点とは限らないかもしれませんが）を選んで、次回のNA Wayマガジンに掲載させていただきます。そうやってNA Wayに名前がのるというのも、なかなかいいものですよ。

申し込みは、Eメールで受けつけています。宛先はnaway@na.org。件名は「ベーシックキャプション・コンテスト」とし、本文には名前と住所を必ず記入するようにお願いします。



A BRIEF HISTORY OF THE BASIC TEXT

『ベーシックテキスト』は、1982年の5月に開かれたナルコティクス アノニマスのワールドサービスカンファレンスによって承認されたが、ワールドサービスオフィスではそれまで長編の書籍を出版したことがなかったため、「第1版」の出版は実に大変な仕事となった。最初に予定していた印刷業者には大きな問題があったうえに、概念上の問題も浮かび上がってきた。出版の準備をすすめていく過程で、承認原稿の「伝統4」と「伝統9」に関する記述にNAのサービス機構をナルコティクス アノニマスの一部と考えるべきではないととれる箇所があるとわかったのだ。そこでWSO（ワールドサービスオフィス）のボード・オブ・ディレクターズ（取締役会）とワールドサービスのボード・オブ・トラスティ（理事会）は議論を重ねたのち、第一版が出版される前に問題の箇所を削除することに同意した。これを受けて、WSC（ワールドサービスカンファレンス）文献委員会の委員長は『ベーシックテキスト』に対する権利条項のうち、正式出版に先立つWSOへの出荷という条項を無効にしようとした。しかし、1983年の5月にワールドサービスカンファレンスが開催されると、文献委員会委員長による決定を支持する動議はまったく提出されず、逆に「NAの文献はNAを代表する法人による公益信託に委託されるべきである」と明記する新しいWSOの定款が認められることになった。これにより、ワールドサービスオフィスの著作権のある第1版を1983年の4月27日にCARENA（カレーナ）出版社という名義で公式に出版したのである。

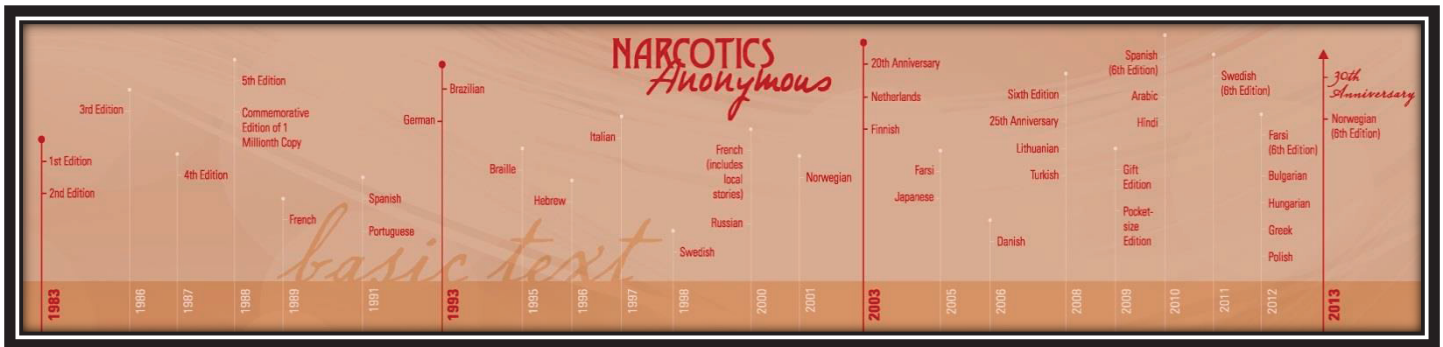
それからひと月もたたないうちに、WSCの決定により『ベーシックテキスト』第2版が事実上誕生した。1983年のカンファレンス議事録には、「私たちの本は、第2版以降の出版では[本来]承認された形式に完全に戻されるべきである」とする動議が可決されたことある。これにより『ベーシックテキスト』の第2版は、削除されていた文章を再挿入して1983年の9月28日に出版された。こうしてカンファレンスからWSOに対して、伝統について論じる記述から削除されていた文章を『ベーシックテキスト』に再挿入するようという指示が出されたわけだが、その翌年のWSCでは、この問題は最終的にNA全体によって直接解決をはかるべきであるという決定が下された。このため、「伝統4」と「伝統9」を論じる記述は本来承認された形式もしくは第2版にある通りにすべきか、あるいは第1版にある通りにすべきかということについて、世界各地の

リージョンの代表者たちはそれぞれのNAの良心をはかるように求められた。そして変更案とその理由、承認されたままとする案とその理由などを収めた7ページに及ぶ質問書が、世界各地のNAに提出された。NA全体の回答は、文章の変更に対する支持票が36、反対票が8であった。このNA全体による直接投票を受けて、第1版の出版でもともと削除された記述は、次回の出版、すなわち第3版でもやはり削除されることとなった。第3版は、この年の10月20日に正式に出版された。

1985年のワールドサービスカンファレンスでは、文法的な整合性と修正のために『ベーシックテキスト』を編集するという動議が可決された。これにより、訂正された原稿はWSCLC（WSC文献委員会）の再検討委員会によって見直しと承認が行われることになったが、当時、WSC文献委員会は『なぜ、どのように効果があるのか』をまとめるのに忙しかつたため、このような編集作業は1986年のワールドサービスカンファレンスまでには完了しなかった。

それでもなお、1986年のカンファレンスでは『ベーシックテキスト』をさらに修正していくことが求められた。これは、『リトル ホワイトブック』の改訂版を出版することと、改訂による変更が反映されるように『ベーシックテキスト』を編集することを求める動議が可決されたためである。『リトル ホワイトブック』はミーティングでよく読まれていた本であったので、その改訂には世界中のメンバーが注目した。『ベーシックテキスト』第3版の改訂版は1986年の11月に出版され、『リトル ホワイトブック』に施された変更は反映されてはいたが、プロによる編集ではなかった。

その後、カンファレンスの指示によって『ベーシックテキスト』がプロにより編集されたが、文献見直し委員会はこの原稿を見直すなかで、新たに改訂された『リトル ホワイトブック』と概念の上で矛盾する記述が6カ所あることを発見した。このため、WSOのボード・オブ・ディレクターズ（取締役会）とワールドサービスのボード・オブ・トラスティ（理事会）に相談したうえで、『リトル ホワイトブック』と記述を一致させるのに必要な修正を加えることについてカンファレンスが決定を下せるまで、第4版の出版を延期することとした。そして、1987年のWSCではこの6カ所のうち5カ所の変更が承認されたことにより、同年に出版された『ベーシックテキスト』第4版には、プロによる編集のほか、この5カ所の変更と『リトル ホワイトブック』の改訂による概念的な変更が施された。また、1986年のWSCの決議によって、この第4版からは件名索引も記載されるこ



2013 Basic Text Timeline Commemorating 30 Years

とになった。

第4版が出版されてまもなく、WSOやWSC文献員会のもとへ『ベーシックテキスト』の誤りに関する苦情が寄せられるようになった。そこで一行一行の見直しを何度も行った結果、プロの編集者が作成したタイプ打ち原稿のなかに重大な写し間違いがいくつもあることがわかった。そして1988年のWSCでは、第3版から削除された文章を『ベーシックテキスト』に再挿入するという動議が提出された。問題となっている変更箇所はかなりの数であるため、見直しをはかる範囲をNA全体に広げてもいいのではないかとこの考えも一部にはあったが、カンファレンス全体の同意は得られず、この件に関する特別な投票用紙を各国のRSCに送るという動議は検討もされないことが投票で決まってしまった。このほか、共に似通った2つの動議が圧倒的多数で否決された。いずれも、第4版を修正して（たとえば第5版として）出版するのではなく、第3版の改訂版の出版に戻ることを求めたものであった。

一方、削除された文章を再び挿入するという動議については議論が行われたが、2/3の過半数をはるかに上回る支持を得て可決されたことにより、1988年の末にはさっそく『ベーシックテキスト』第5版が出版された。また、この動議には「『ベーシックテキスト』は「今回のカンファレンスから5年間にわたり改訂の対象とはしない」という修正案が盛り込まれていた。この猶予期間は1993年のワールドサービスカンファレンスによってさらに5年間延長された。そして1998年には、猶予期間を求める同じような動議が否決されたが、『ベーシックテキスト』と『リトルホワイトブック』の改訂に関して動議や修正案をはじめ、あらゆる意見提供をワールドボードに委任するという動議が可決された。これにより、ワールドボードは2000年のワールドサービスカンファレンスに対して提案書を提示することになった。2000年のカンファレンスでは、『ベーシックテキスト』と『リトルホワイトブック』に対して可能な変更を評価する作業を開始することを可決した。そのような作業は最終的に『ベーシックテキスト』第6版をつくるプロジェクトとなっていったのである。

2008年のWSCでは、『ベーシックテキスト』第6版作成についてCAR（カンファレンスアジェンダレポート）に盛り込まれた3つの動議が、満場一致で可決された。これは、

(1) 『ベーシックテキスト』第5版にある個人の物語を、CARに盛り込まれた物語に替えること。(2) 新規に「第6版によせての序文」を加え、「ブック1（第一部）」と「ブック2（第二部）」というタイトルをそれぞれ、「NAプログラム（ナルコティクス アノニマス）」と「NAメンバーズ・シェア（仲間のわかちあい）」とに変更し、個々の物語の概要を目次に加え、「リフレクションズ」をはじめとする個人の物語のタイトルを承認すること。(3) ワールドボードが新版の序文によって統計的な資料（NAミーティングの数など）を更新することを可能にすること。以上の3つである。このほかの第6版に関する決定は、過半数（2/3以上）によるもので満場一致には至らなかった。また、追加で承認された動議により、改訂された索引を掲載するほか、1章から10章に対して2点の原稿編集を行うことになった。具体的には、「N. A.」を「NA」に替えることと、もう存在していないPIガイド（案内）を参照とする脚注を「伝統11」の章から削除することである。

こうして『ベーシックテキスト』の最新版が誕生し、『GWSNA（ガイド・トゥ・ワールドサービス・イン・NA）』には次のような声明が加えられた。「『ベーシックテキスト』の第6版は、2008年のWSCによって承認された。2008年の10月に頒布されるようになれば、『翻訳方針』に付記されている版を除いてNAWSによる販売が認められるのは、この第6版だけということになる」。

この声明は、同年のCARで説明されているが、第5版に関して1991年のカンファレンスで下された決定に従って発表されたものだった。1990年に、一部のNAメンバーたちが『ベーシックテキスト』の「第一部」とする本を自費出版したのだ。これは、第3版の改訂版と、第2版で「伝統4」と「伝統9」について論じた文章を組み合わせで作られたものだった。そして、当時この件で主動的な役割を果たしたメンバーが米国連邦裁判所の公聴会において出版停止を承諾すると、ワールドサービスオフィスのボード・オブ・ディレクターズ（取締役会）は1991年のカンファレンスアジェンダレポートによってNA全体に対する3つの動議を提出す

ることに合意した。

この3つの動議はC A Rによって発表され、その直後の1991年のカンファレンスに提出されて否決された。

カンファレンス出席者全員による長時間の議論と特別委員会による審議を経て、WSCはN A全体に対して以下のような声明を出すことに決めた。

「現在、ナルコティクス アノニマスのワールドサービスカンファレンスによって出版および販売を承認されている『ベーシックテキスト』は唯一、『ベーシックテキスト』第5版だけとなっている。ワールドサービスオフィスのボード・オブ・ディレクターズ（取締役会）は、『ベーシックテキスト』をはじめとするN Aの物質的および知的財産を保護することに対する責任を委ねられている。したがって、NAの文献委託を侵害するありとあらゆる者に対してN Aの物質的および知的財産に関する権利を保護するためには、この取締役会の裁量によって法的措置をとらなければならない」

また、以上に絡んで、1991年のWSCではN Aの知的財産所有権ならびに出版事業についても2つの動議が可決した。このうち一方は、「N Aの知的財産および物質的財産の所有権は過去に作成されたものについても今後作成されるものについてもすべてワールドサービスオフィス社によって保持されることとし、このワールドサービスオフィス社はワールドサービスカンファレンスによる決定に従い、ナルコティクス アノニマスという仲間の集まり全体を代表して委託されてその所有権を保持することを再確認して批准する」ことを求めるものであり、指名点呼投票により賛成票67、反対票9、棄権3で採択された。

もう一方は、「ナルコティクス アノニマスという仲間の集まりの指示に従い、ワールドサービスオフィス社は、書籍、パンフレット、ハンドブックをはじめとしてワールドサービスカンファレンスで承認されたすべてのNA文献、ならびにNAの知的財産および物質的財産の唯一の発行者であり独占的販売者であることを再確認する」ことを求めるもので、発声投票により2/3の賛成を得て採択された。

低価格の『ベーシックテキスト』の問題に関しては、

1991 WSC

“That the fellowship reconsider its decision on which edition, or parts thereof (First, Second, Third, Third Revised, Fourth, or Fifth), of the Basic Text shall be produced and distributed by the WSO as the official and accepted text of Narcotics Anonymous.”
(Motion failed by roll call vote 23-51-6)

“That the WSO produce, at a reduced price, the edition of the text ratified by the WSC. The actual price of this text should be determined in view of the following factors: its affordability to the membership at large; a change in the cost and quality of the materials used in producing the book; the responsibility of the WSO to provide services from the income generated by sales of the Basic Text; and whether it includes the personal stories or only the first ten chapters.” (Motion failed by voice vote)

“That the WSC be directed to obtain a group-by-group tally of all the groups registered with the WSO, on Motions 13 and 14 above. This procedure will begin on July 1, 1991 and continue through December 31, 1991. All the registered groups shall receive a copy of a paper detailing the differences between the editions of the Basic Text, and a complete copy of the Basic Text Third Edition, Revised. In addition, each group shall receive complete information concerning the issues relevant to a reduction in the price of the ratified text. [The motion includes one more paragraph detailing the committee to supervise the tally.]” (Motion failed by roll call vote 21-55-4.)

NAの回復の基礎が書かれている本で値段の安いものができれば、新しいメンバーたちが手に取りやすくなるだろうということが1991年のWSCで認知された。そして、そのような本のタイトルを『イントロダクトリー・ガイド・トゥ・ナルコティクスアノニマス』とし、編集と出版をWSOとWSC文献員会に指示する動議が、満場一致で可決された。

以上に記した出来事を考えれば、NAという仲間の集まりがその回復に関する文献の問題についてその良心を表してきたことは、きわめて明白であると思える。メンバーやグループがNAの文献を改ざんして印刷し直そうとしても、NA全体の良心は反映されないのだ。NAのグループはNAの著作権の所有者として、NAワールドサービスはNA知的財産信託の管財人として、共にNAの著作権を保護する取り組みにおけるパートナーである。どうか、このようなパートナーシップを大事にしていきたい。そして、NAのグループとメンバーには、NA文献の改ざんや抜き刷りをしようとする者たちに対して、そのような行為を見合わせるように要求する権利と責任があることを、くれぐれも忘れないように願います。個人の回復はNAの一体性にかかっている。だからこそ、わたしたちの命綱となる文献の完全性を守るために力を合わせなければならないのだ。



NA Literature Timeline

This essay is part of the September 2014 bulletin, *NA Copyrights and Literature*, available at www.na.org/fipt

草稿作成に、ご協力を！

(まずは、作業の進め方を知っておこう)

先行の意見提供 は、草稿に盛り込むことができる最初の経験とアイデアである。私たちはまず、プロジェクトの掲示板、NAメンバー、NAのグループやサービス機関などから意見を収集し、各章の草稿作成のために片っ端から目を通していているところなので、これから意見を提供される場合には早めにお願ひしたい。なお、「伝統2」から「伝統6」に関する先行の意見提供は、11月30日に締め切られた。それまでには世界中から何百ページにも及ぶ意見をお寄せいただき、心より感謝している。

先行の意見提供を原稿に盛り込むため、みなさんには以下のことをお勧めしたい。

- ・ プロジェクトの掲示板 (<http://disc.na.org/trads>) に参加すること。
- ・ ウェブページ (www.na.org/traditions) にある資料を利用してワークショップを開くことや、ワークショップに参加すること。
- ・ インターネット (www.na.org/traditions) で、先行の意見提供をすること。
- ・ 「伝統7」から「伝統12」に関する先行の意見提供をすること。
(5月末で締め切り)
- ・ 締め切にあわせたり一定のページ数になるまで待ったりせず、意見が集まり次第に提出すること。

見直しと意見提供 (R & I) に関する資料 は、各章の草稿であり、NA全体で目を通してプロジェクトのワークグループにフィードバックするために利用される。この資料は、各章ごとのR&Iで少なくとも90日間は利用可能である。R&Iについて知っておいていただきたいことをあげておこう。

- ・ 「序文」と「伝統1」のR&Iは、2014年の10月に資料を公開し、2015年1月31日をもって意見提供を締め切る。
- ・ 「伝統2」から「伝統6」のR&Iは、1月以降に資料が公開される。
- ・ 「伝統7」から「伝統12」のR&Iは、4月以降に資料の公開を予定している。
- ・ 各章のR&Iに関する資料は、プロジェクトのウェブページ (www.na.org/traditions) で入手可能になっている。
- ・ R&Iに関するフィードバックはEメールやファクスで提出するか、あるいはウェブページでフィードバックの用紙に入力することもできる。詳しいことは、www.na.org/traditions でご確認いただきたい。

このようなプロジェクトが前進するのを目の当たりにして、私たちはとても張り切っている。ひきつづき、報告をお楽しみに！

ニューズレターの編集者および委員会のみなさん、
協力をお願いします！

みなさんのエリアやリージョンでは、
ニューズレターを発行していますか？

ぜひ、みなさんの活動をお知らせください。

その際には、みなさんのEメールアドレスかメーリングリストもお忘れなく！

naway@na.org

NA Wayマガジン PO Box 9999; Van Nuys, CA 91409

ニューズレターに関する経験の共有や問い合わせには、

以下の掲示板をご利用ください。

<http://disc.na.org/servdisc/forum.php>

Traditions Book



Project

NAが
一丸となれば、
最良のNA文献が
つくれるだろう！

R&Iの予定
日程をお間違えないように！
「伝統2」～「伝統6」
3月1日～5月31日

「伝統7」～「伝統12」
6月1日～8月31日

さらに詳しい情報は
www.na.org/traditionsをご覧ください

フェローシップ ディベロップメント

マルチゾーナル サービス シンポジウム

ミズーリ州セントルイスの第1回MZSS（マルチゾーナルサービスシンポジウム、2014年9月28日～28日開催）は、週末にかけてサービスについて学ぶ素晴らしいイベントだった。NAのサービス活動に関する教育の場となっただけでなく、このイベントによって一体性が強まったNAや、一体性が生まれたNA、さらには一体性を取り戻したNAもあった。当日は、合衆国にある44のリージョンから登録により234名のメンバーが参加し、合衆国以外でも3カ国のメンバーたちがインターネットによって2つのワークショップに参加してくれた。そして、参加できなかった場合でも、シンポジウム終了後にワークショップの映像や書類をmzssna.orgのアーカイブで閲覧できるようになっている。このような資源はさらにna.orgの Locally Developed Resources（世界各地で開発された資源）というページにもアップロードすることも考えている。

3つのゾーナルフォーラム（ミッドウェスト、プレインズステーツ、サザン）に属す11のリージョンから参加したワークグループのメンバーたちは、このシンポジウムが開催された週末まで実際に会ったことはなかった。それでも信じる気持ちや信頼や忍耐力をもってテクノロジーを利用したことと、シンポジウムの開催前や開催期間中に何らかの形で協力してくれたメンバーたちによる長時間の作業があったことで、このようなイベントが開催できたのだ。

出席者たちは新しい技術やアイデアにより心機一転して再びやる気になった。このシンポジウムから持ち帰る最も素晴らしいもののひとつは、この週末を通して伝わってきた感謝の気持ちとひらめきをかたちにしようというエネルギーだろう。私たちがメッセージを運ぶ方法はいろいろとあることを学ぶなかでも、自分と同じようにNAでサービスに関わることに熱心なメンバーたちと交流するなかでも、「なるほど！と思う瞬間」がたくさんあったのだ。

パジャマ ラウンドテーブル（パジャマで円卓会議）？

俺は、サザンフロリダリージョンのリージョナルデリゲート（代表）としてMZSSに出席した。これまで30年以上にわたってNAでずっとサービスに関わってきたので、同じようなサービスジャンキーたちには親近感を覚える。MZSSでは、いろんな所でサービスに関わっている仲間たちといっぺんに出会うことができた。俺は、話し合いの進め方とか、合意に基づく意思決定とか、さまざまなテーマのワークショップに参加した。そして、土曜夜にはゾーンに関するパジャマ ラウンド テーブルという話し合いがあり、フロリダのメンバーとニューヨーク東部のメンバーによる議事進行の手助けをした。実際に円卓があったわけじゃないし、パジャマ姿の参加者がいたわけでもないが、素晴らしい話し合いができた。

ジェフ・P（アメリカ合衆国／フロリダ）

アウトリーチ効果

日曜の午後に会場をでるとき、わたしがMZSSから持ち帰ることができたのは単なる理論やアイデアにとどまらない。シンポジウムでさまざまな道具（テクノロジー、ワークショップ、技術など）の効果的な使い方を示してくれた仲間たちや、シンポジウムが終わってから今回のあらゆる情報をウェブページで利用可能に

してくれた仲間たちの姿が、しっかりと胸に刻まれていた。このシンポジウムは、わたしが回復の道を歩む僻地でのアウトリーチサービスに大きな影響を及ぼすようになっていたので、わたし自身にとっても、わたしがサービスに関わるうえでも、どれほど重要なイベントであるかを説明するのは不可能だ。

ミンディ・A（アメリカ合衆国／ミズーリ）

目を見張ることばかり

MZSSNAは実にそつのないイベントだった。ワークショップはよく考え抜かれたものだったし、会場もちょうどよかったし、伝統からはずれないようにテクノロジーを利用しているのも素晴らしいかった。発表者としては、みんなが自分たちのNAでPR（広報）のサービスを提供する新しい方法について夢中で聞き入っているのを目の当たりにした。そして出席者としては、学ぶことがそれはもうたくさんあり、なかでもテクノロジーに関するワークショップへの参加は実に有意義だった。志を同じくしてサービスに熱心に関わっている仲間たちと知識や情報やアイデアを共有することは、NAで行われる教育的なイベントや研修会のなかでもつねに一番素晴らしいことだ。まだ苦しんでいるアディクトに提供する私たちのサービスを改善することと、私たちのスキルを優れたものにしていくことを共通の目標としてNAがひとつにまとめれば、なにか形にならないものが生じる。それこそが、仲間同士で助け合うことの喜びだろう。

ジェフ・R（アメリカ合衆国／カリフォルニア）

テクノロジーと一体性

サービスに関わることで、アジアパシフィック フォーラムを代表してMZSSに幾ばくかの経験と力と希望を運ぶ機会が与えられたことに、心から感謝している。このワークグループの描く未来像はまったく驚くべきものだ。これによって世界中のNAの一体性をはぐくもうと、合衆国内や世界各地のリージョンとゾーンがひとつにまとまった。そして現代のテクノロジーは、サービスの提供にさまざまな可能性をもたらしてくれる。そうして録音されたものを耳にする機会が増えていき、インターネットで共有される資料を閲覧できるようになっていくのを楽しみにしている。この第1回目のイベントによってつくられたモデルがこれからどのように進化していくのか見守るためにも、目が離せないだろう。

ロジャー・S（ニュージーランド／アオテアロア）





Service center

To increase awareness of some of NA's service resources and the ways they can help trusted servants, groups, and service bodies, we'll be highlighting some of them here in *The NA Way*, along with links to additional resources and member experiences. For now, we're calling this section "Service Center," but we'd like your help coming up with a name that captures the spirit of NA service. Please email your ideas by 28 February 2015, with "service center" in the subject line, to naway@na.org.

What are SPs?

Service pamphlets, or SPs, are resources developed by the World Board (as directed by the 2006 World Service Conference) for use by groups, service bodies, and trusted servants. Although SPs are not intended to be read in meetings, they can be displayed on the group's literature table for interested members.

Group Trusted Servants: Roles and Responsibilities. NA service begins in the groups, which carry the message directly to still-suffering addicts. This SP describes basic group service positions and offers suggestions from experienced trusted servants on how to accomplish these responsibilities.

Group Business Meetings includes thoughts on effective group business meetings as well as a sample format and possible discussion topics.

Other group resources include *The Group Booklet* available at www.na.org/?ID=ips-index, and group registration/updates at www.na.org/?ID=updates.

You can read, download, and print all of the SPs at www.na.org/servicemat. To purchase SPs, contact NAWS Customer Service at customer_service@na.org or go to our online store at www.na.org/?ID=OrderLiteratureOnline-content.

Get connected with NA eLit and Apps!

Apps

Available on the App Store and Google play*

NA Meeting Finder

(includes daily Just For Today reading)



Available Soon!

The NA Step Working Guides

* This does not constitute an endorsement of or affiliation with these vendors.

eLit

Available on Amazon and iTunes*

Narcotics Anonymous

(Basic Text, Sixth Edition)

It Works: How and Why

Sponsorship

Amazon: <http://tinyurl.com/clolgzl>

iTunes: <http://tinyurl.com/9zj5f3x>

Living Clean:

The Journey Continues

Amazon: <http://tinyurl.com/ly6r384>

iTunes: <http://tinyurl.com/luucyy5>



CALENDAR

ここでは、NAのホームページにあるイベントスケジュールをもとに数日にわたるイベントとその開催日程を載せてあります。申し込みや問い合わせについては、ホームページのスケジュールカレンダーwww.na.org/eventsをご覧ください。(インターネットを利用していない場合には、FAXまたは郵送で参加希望のイベントについてお問い合わせください。FAX: 818.700.0700, 郵送: 「NA Way」または「The NA Way」; Box 999; Van Nuys, CA 91409 USA.)
載申し込みの締め切り

4月号	4月10日～7月31日 1月15日
7月号	8月1日～10月31日 4月15日
10月号	11月1日～1月31日 7月15日
1月号	2月1日～4月30日 10月15日

ボスニア & ヘルツェゴビナ

サラエボ 1月16日～18日「第6回 ボスニア&ヘルツェゴビナ&アドリアティック リージョナルウィンターコンベンション」(会場) ホテル・ハリウッド (場所) サラエボ (問い合わせ) www.nasarajevo.webs.com

ブラジル

アラクルス 3月19日～22日「第19回 ブラジル リージョナルコンベンション」(会場) SESC プライア・フォルモサ (場所) アラクルス (問い合わせ) www.na.org.br

セアラ 4月23日～26日「第1回ノルデステ [北東部] リージョナルコンベンション」(会場) ブロードウェイ (場所) カノアケブラダ (問い合わせ) www.crnandordeste.com.br

ドイツ

ベルリン 4月3日～5日「第1回 ヨーロピアン サービスラーニングデイ」(会場) ベルリナー・スタッドミッション (場所) ベルリン (問い合わせ) www.edmna.org

インド

アトラケンド 2月12日～15日「第12回 デリー エリアコンベンション」(会場) パルランパー・ハウス (場所) マリタル、ナイニタール (問い合わせ) www.nadelhi.org/dacna-xii

アイルランド

アスローン 3月27日～29日「第21回 イースタン [東部] エリアコンベンション」(会場) アスローン・スプリングス・ホテル (場所) アスローン (問い合わせ) www.nairleast.org

ノルウェー

トリシル 3月8日～15日「エールベルム グループ スキー&リカバリー」(場所) トリシル (問い合わせ) www.nanorge.org

タイ

チェンマイ 2月28日～3月1日「第8回 タイランド リージョナルコンベンション」(会場) センタラ・ドウアンタワン・ホテル (場所) チェンマイ (問い合わせ) www.na-thailand.org

英国

ランカシャー 11月21日～23日「第22回 ノースウェスト [北西部] イングランド & ノース [北部] ウェールズ エリアコンベンション」(会場) ヒルトン・ホテル (場所) ブラックプール (問い合わせ) ukna.org/events

アメリカ合衆国

アラバマ 1月16日～18日「第18回 セントラル [中部] アラバマ エリアコンベンション」(会場) ダブルツリー・ダウタウン (場所) モンゴメリー (問い合わせ) Tel. 716. 579. 4550

2) 3月27日～29日「第18回 グレーター モバイル エリアコンベンション」(会場) モバイル・マリオット (場所) モバイル (問い合わせ) Tel. 251. 421. 3760

アリゾナ 3月13日～15日「第6回 メキシコ・アリゾナ・カリフォルニア コンベンション」(会場) シャイロ・イン・スイーツ&ホテルズ (場所) ユマ (問い合わせ) www.maccna.org

カリフォルニア 2月20日～22日「第23回 セントラル [中部] カリフォルニア リージョナルコンベンション」(会場) ベーカーズフィールド・マリオット・コンベンションセンター (場所) ベーカーズフィールド (問い合わせ) www.cceinc.org

2) 4月2日～5日「第37回 ノーザン [北部] カリフォルニア リージョナルコンベンション」(会場) サンノゼ・ヒルトン (場所) サンノゼ (問い合わせ) www.norcalna.org

3) 4月3日～5日「第30回 サンディエゴ インベリアル カウンティズ リージョナルコンベンション」(会場) マンチエスター・グラウンド・ハイアット (場所) サンディエゴ (問い合わせ) www.sandiegona.org

フロリダ 4月17日～19日「ウィメンズ ホープ グループ スピリチュアルリトリート [女性限定]」(会場) シーダーカーク・カンファレンスセンター (場所) タンパ (問い合わせ) debc@tampabay.rr.com

2) 4月23日～26日「第37回 ファン・イン・ザ・サン (日の当たるところでの楽しみ)」(会場) ボードウォーク・ビーチ・リゾート (場所) パナマ・シティ・ビーチ (問い合わせ) www.funinthesunconvention.org

ジョージア 2月26日～3月1日「第34回 ジョージア リージョナルコンベンション」(会場) マリオット・オーガスタ・コンベンションセンター (場所) オーガスタ (問い合わせ) www.grcna.org

2) 4月30日～5月3日「第7回 リトルガール グロースアップ [ウィメンズコンベンション/女性限定]」(会場) ヒルトン・アトランタ・エアポート (場所) アトランタ (注) スピーカー選考録音テープ: 1月31日締め切り (問い合わせ) www.alittlegirlgrowsup.org

イリノイ 3月20日～22日「第24回 ロックリバー エリアコンベンション」(会場) ホリデイ・イン・ロックフォード (場所) ロックフォード (問い合わせ) www.rragdna.org

インディアナ 3月6日～8日「第22回 インディアナステート コンベンション」(会場) ラディソン・スター・プラザ (場所) メリルヴィル (問い合わせ) www.naindiana.org

マサチューセッツ 3月6日～8日「第16回 ニューイングランド リージョナルコンベンション」(会場) リゾート&カンファレンスセンター・アット・ハイアニス (場所) ハイアニス (問い合わせ) www.nerna.org

ミシガン 4月2日～5日「デトロイト エリアコンベンション DACNA」(会場) アドバ・ホテル (場所) ディアボーン (注) スピーカー選考録音テープ: 1月17日締め切り (問い合わせ) www.michigan-na.org

ニュージャージー 2月27日～3月1日「第25回 ケープ アトランティック エリア パール・オブ・リカバリー コンベンション」(会場) ストックトン・シービュー・ホテル&ゴルフクラブ (場所) ギャロウエー (問い合わせ) www.pearlofrecovey.com

2) 3月13日～15日「第14回 キャピタル エリアコンベンション」(会場) シェラトン・バックス・カウンティ・ホテル (場所) ラングホーン (問い合わせ) www.capitalareaofna.org

ニューヨーク 2月13日～15日「第10回 メトロ エリア デハブラ ヒスパーナ コンベンション [スペイン語]」(会場) クラウン・プラザ・ホテル (場所) ホワイトブレインズ (問い合わせ) www.mahh.org

2) 2月20日～22日「第21回 ロチェスター エリアコンベンション」(会場) ラディソン・ホテル (場所) ロチェスター (問い合わせ) www.rochesterny-na.org

2) 2月27日～3月1日「第9回 ブロンクス エリアコンベンション」(会場) ヒルトン・ウェストチェスター (場所) ライブルック (問い合わせ) www.bronxareana.com/convention

ノースカロライナ 2月27日～3月1日「第14回 フリーダム・バイ・ザ・シー (海辺で自由を満喫する)」(会場) シートレイルズ・ゴルフリゾート&コンベンションセンター (場所) サンセットビーチ (問い合わせ) www.coastalcarolinaarea.org

オハイオ 2月20日～22日「第18回 トレド エリアコンベンション」(会場) ラマダ・ホテル&カンファレンスセンター (場所) トレド (問い合わせ) www.natoledo.org

2) 3月6日～8日「第12回 クリーブランド レッグス エリアコンベンション」(会場) ホリデイ・イン (場所) インディペンデンス (問い合わせ) www.nabuckeye.org

ペンシルバニア 2月6日～8日「第31回 ミッドアトランティック [中部大西洋地域] リージョナルコンベンション」(会場) ランカスター・ホテル (場所) ランカスター (問い合わせ) www.marscna.org

サウスカロライナ 2月20日～22日「第14回 グレーター・コロニア エリア RAW コンベンション」(会場) ヒルトン・ヘッド・マリオット・リゾート&スパ (場所) ヒルトン・ヘッド・アイランド (問い合わせ) Tel. 803. 446. 9618

テキサス 2月6日～8日「第15回 ティージャスブルーボネット リージョナルコンベンション」(会場) オムニ・サンアントニオ・アット・ザ・コロネード (場所) サンアントニオ (問い合わせ) www.tbrcna.org

2) 2月20日～22日「第30回 テクサーカナ エリアコンベンション」(会場) ウィンダム・ガーデン (場所) テクサーカナ (問い合わせ) www.arscna.org

ユタ 3月20日～22日「第22回 ノーザン [北部] ユタ エリアコンベンション」(会場) コートヤード・バイ・マリオット (場所) オグデン (問い合わせ) www.nuacna22.org

バージニア 3月12日～15日「クリーン&フリー」(会場) オーシャン・ショアーズ・コンベンションセンター (場所) オーシャン・ショアーズ (問い合わせ) www.wnirna.org

ウィスコンシン 2月6日～8日「第19回 グレーター・ミルウォーキー ユニティ コンベンション」(会場) ハイアット・グリーンジーシー (場所) ミルウォーキー (問い合わせ) www.namilwaukee.org

西ベンガル

ダージリン 4月3日～5日「ダージリンエリア 第4回コンベンション & 25周年」(会場) キャピタル・ホール (場所) ダージリン (問い合わせ) www.naindia.in

NAWS Product Update



Just for Today – New Pocket-sized

Offers a daily recovery principle, topic, NA literature quote, and closing affirmation – in a 3 1/2" x 5 1/4" size to fit easily into pocket, purse, or backpack.

Item No. 1113 Price US \$9.30

IP No. 29, An Introduction to NA Meetings H&I Edition

Offers a welcoming introduction, explains practices unfamiliar to those at their first meetings or in early recovery, and provides tips to help groups preserve an atmosphere of recovery.

Item No. 3129H&I Price US \$0.24



Chinese

IP No. 11, 帮助关系

Item No. CH-3111 Price US \$0.24

IP No. 19, 自我接纳

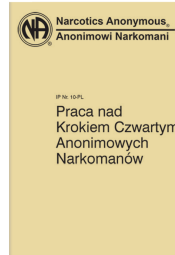
Item No. CH-3119 Price US \$0.24

Chinese (Traditional)

Information about NA

關於NA

Item No. ZPRCT1002 Price US \$0.30



Polish

Praca nad Krokiem Czwartym Anonimowych Narkomanów

Item No. PL-3110 Price US \$0.77

Russian

IP No. 24, Про деньги Самообеспечение имеет значение

Item No. RU-3124 Price US \$0.53

IP No. 28, Финансирование органов обслуживания АН

Item No. RU-3128 Price US \$0.35

IP No. 29, Собрания сообщества АН: Что это такое?

Item No. RU-3129 Price US \$0.24



Italian

Basic Text 6th Edition
Narcotici Anonimi

Item No. IT-1101 Price US \$11.55

In Times of Illness

Durante le malattie

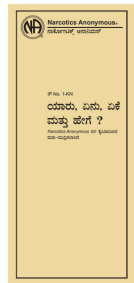
Item No. IT-1603 Price US \$3.20

Kannada

IP No. 1,

ಯಾರು, ಏನು, ಏಕೆ ಮತ್ತು ಹೇಗೆ ?

Item No. KN-3101 Price US \$0.24



Spanish

IP No. 29,

Introducción a las reuniones de NA

Item No. SP-3129 Price US \$0.24

Swahili

Group Reading Cards

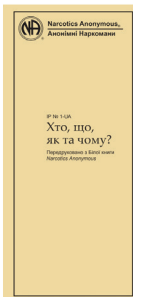
Item No. SH-9130 Price US \$4.60

Ukrainian

IP No. 1,

Кто, що, як та чому?

Item No. UA-3101 Price US \$0.24



Korean

IP No. 22,

NA에 오신 것을 환영합니다

Item No. KO-3122 Price US \$0.24

Nepali

IP No. 9, आत्म-स्वीकारोक्ति

Item No. NE-3109 Price US \$0.24



Coming Soon

2015 *Just for Today* Daily Meditations Calendar

Excerpts directly from our *Just for Today* book; each page encourages and inspires daily recovery. 4.25" x 5.25" tear-off pages with easel stand and hole for wall hanging.

Item No. 9500 Price US \$11.75



Portuguese (Brazil)

Basic Text 6th Edition

Narcóticos Anônimos

Item No. PB-1101 Price US \$11.55

eLit

Will be available through Amazon and iTunes

The NA Step Working Guides

Russian

Basic Text

Just for Today

The NA Step Working Guides



Laser-engraved Medallions

Slightly smaller than our current bronze and triplate, this laser-etched 1-1/8" stainless steel medallion will be available in 1 thru 50 years, 18 months, and eternity.

Item No. 7500 series Price US \$12.50

